

日本国際連合学会 (JAUNS)

ニューズレター

2024 年度 2 号

- JAUNS は、日本国際連合学会の英文名称、Japan Association for United Nations Studies の略です。
- このニューズレターには学会の活動や会員の皆様へのお知らせを記載いたします。
- 学会へのご意見、ご質問などは事務局までお寄せください。

ハイライト

- 日本国際連合学会第 26 回研究大会(2025 年 6 月 7-8 日)のプログラムが発表されました。
- 研究大会での「若手独立報告」を募集しています。
- ACUNS の無料会員を募集しています。
- 2025 年 4 月 1 日時点での会員数は 289 名となる見込みです。
- 2024 年度の会員名簿の提供を 3 月に予定しています。
- コラム:「国連よもやま話」をはじめました。

1. 2024 年度第 2 回理事会 (2025 年 1 月 11 日開催) の報告

2025 年 1 月 11 日 (土) に法政大学市ヶ谷キャンパスにおいて対面と Zoom により 2024 年度第 2 回理事会が開催されました。東アジア国連システム・セミナー及び『国連研究』編集状況の報告、2025 年度研究大会、国連学会ホームページの利便性向上のための追加予算案、「国際連合学会の役割の強化と改革のためのタスクフォース報告」の実現可能性を検討するワーキンググループ報告書について【継続】、入会及び退会の承認などの検討が行われました。理事会の議事抄録は、後日あらためて学会メーリングリストで配信いたします。

2. 第 23 回国連東アジアセミナー

2024 年 9 月 27 - 28 日に日中韓東アジア国連システム・セミナーが日本で開催されました。

3. 企画委員会からのお知らせ・研究大会 (2025 年 6 月 7・8 日開催)

日本国際連合学会第 26 回 (2025 年度) 研究大会プログラム

共通テーマ:「国際社会の分断と国連: 人権・開発・人間の安全保障の課題」

「人権および基本的自由の尊重」は、国連憲章が定める国連の目的の一つである。1948 年の世界人権宣言に始まり、国際人権規約、人種差別撤廃条約、女子差別撤廃条約、拷問等禁止条約、児童の権利条約、

障がい者・先住民族・無国籍者といったマイノリティの権利、発展の権利に至るまで、基本的人権に関する様々な宣言や条約などが採択されている。また、1990年代には人間開発や人間の安全保障といった新しい概念が誕生し、「人権の主流化」の流れの中で「人権に基づく開発アプローチ」の重要性が認識されてきた。そして、2015年に採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」では、「持続可能な開発目標（SDGs）」の目標とターゲットがすべての人々の人権の実現を目指すものであり、「誰一人取り残されない」世界を目指し、「最も遅れているところに第一に手を伸ばすべく努力する」ことが謳われている。このように国連は人権と開発を不可分の課題として位置付けてきた。

SDGsの達成期限である2030年まで残り5年だが、目標達成は困難な状況にある。国連が作成した「SDGs報告2024」によれば、SDGsのターゲットのうち3分の1超は停滞または後退し、新型コロナウイルス（COVID-19）パンデミックの長期的影響、深刻化する紛争、地政学的緊張、気候変動の拡大がSDGsの進展を大きく妨げている。取り残されている脆弱な人々の尊厳を確保することが喫緊の課題であるにも関わらず、世界的な分極化が進み、多国間主義や国際協調に大きな陰りが生じている。国連をはじめとする国際機関、地域機関、国家、市民社会、企業といったグローバル・ガバナンスを担う多様な主体の協力と連帯がますます問われている。そこで2025年度の研究大会では、SDGsの進捗状況を踏まえて、分極化時代の国連の人権・開発・人間の安全保障の課題をテーマに、幅広い議論を行う。

【日時】2025年6月7日（土）、8日（日）

【会場】明治学院大学白金キャンパス

【方式】対面

<第1日：2025年6月7日（土）>

1. 10:00～12:00 <<理事会>>

2. 13:00～ <<開場>>

3. 13:30～13:35 <<開会挨拶>>

山田哲也（日本国際連合学会理事長、南山大学）

4. 13:35～14:30 <<基調講演>>

5. 14:30～14:40 <<休憩>>

6. 14:40～17:20 <<研究報告セッション1>>

「国際社会における人権保護の挑戦と国連の役割」

21世紀の国際社会において、人権問題はますます複雑化し、多様な課題を孕んでいる。特に、武力紛争、難民・移民問題、ジェンダー不平等、LGBTQ+の権利擁護の問題が顕著である。このような状況において、国連はその創設時からの「平和の維持」と「人権の促進」の役割をどのように果たし、進化させてきたのかを再評価することが求められる。武力紛争における一般市民の犠牲や、ジェノサイド、戦時下での性暴力の蔓延は、国際法に基づく制裁措置や平和維持活動の強化を要する課題である。一方で、気候変動による人権への影響や、移民・難民の人権保護も国連の主要な課題となっている。これらの問題は、一国の政策や取り組みを超えて、国際的な協調と国際法の強化によってしか解決できない。本企画では、武力紛争やその他の人権侵害が続く現状において、国連がいかにしてその役割を果たしているのか、またその限界をどう克服すべきかを論じる。国連の理念が、実際にどのよ

うに反映され、各国政府や非国家主体との協調の中でどのような成果を上げているのかを検証する。この検証を通じて、国連が国際社会における人権保護の促進に果たす役割を明確化し、その存在意義を問い直す場とする。

*懇親会につきましては、開催校との調整により実施の是非を検討して参ります。

<第2日：2025年6月8日（日）>

1. 9:30～≪開場≫

2. 10:00～12:40 ≪研究報告セッション2≫

「SDGsの加速化と人間の安全保障」

国連開発計画（UNDP）が2024年に公表した「人間開発報告書2023-24年版」によれば、最貧層が取り残されて不平等が拡大する一方で、世界規模の政治的な分極化が進み、世界規模の課題への対策が行き詰まりをみせている。また、「SDGs報告2024」では、残り6年で持続可能な開発目標（SDGs）を達成する見込みには遠く及ばないため、より強力かつ効果的な国際協力の必要性が強調されている。こうしたなか、持続可能な開発における人間の安全保障の重要性が改めて認識されている。UNDPが2022年に公表した人間の安全保障に関する特別報告書では、人新世の脅威に対抗するための新しい人間の安全保障戦略が提示された。さらに、2024年に公表された「人間の安全保障に関する事務総長報告書」においても、人間安全保障がSDGsの実現を加速化させるツールとして有用であることが指摘されている。そこで本セッションでは、人間の安全保障の視点からSDGsの進捗状況や達成に向けた課題について議論する。

3. 12:40～13:30 ≪昼食≫

4. 12:40～13:30 ≪各種委員会≫

5. 13:40～15:00 ≪特別報告セッション≫

「日本国連学会と東アジアの過去、現在、未来」

本セッションでは、日本国際連合学会（JAUNS）が出版した編著 Evolution of the United Nations System: An East Asian Perspective（Routledge, 2023）の執筆陣が登壇する。JAUNSが編者となり、韓国国連評議会、中国国連協会と継続してきた東アジアセミナーの20周年を記念して出版したのが本書である。登壇者が、寄稿論文を素地として国連80周年およびその後を展望する議論を行うことで、編著の魅力を伝える。本書では、平和と安全、健康を含めた開発、人間中心の社会など、グローバル・ガバナンスの多様な側面に光があてられる。執筆陣のみならず本研究大会の参加者とのあいだで、国連の未来のほか、日中韓の研究交流の重要性に関する意見交換も行いたい。

6. 15:00～17:00 ≪若手独立報告セッション≫

日本国際連合学会第26回（2025年度）研究大会「若手独立報告」募集について

日本国際連合学会2025年度研究大会は、2025年6月7日（土）、8日（日）に明治学院大学白金キャンパスにて開催する予定です。例年通り、「若手独立報告」セッションの報告者を募集いたします。「若手独立報告」セッションは、8日の午後に開催する予定です。国連研究の新たな可能性を示す、意欲的な報告をお待ちしております。なお、報告者に対しては、旅費助成の制度もございますので、詳細につきましては日本国際連合学会事務局にお問い合わせください。

4. 編集委員会からのお知らせ

現在、『国連研究』第 26 号（特集テーマ「国連と秩序構想」）の編集作業中です（2025 年 6 月刊行予定）。

5. 渉外委員会からのお知らせ

本学会は ACUNS（Academic Council on the United Nations System）の団体会員になっている関係で、5 名の無料会員枠が与えられています。今回も、5 名中 1 名は事務局長に振り分け、残りの 4 名について会員への ML などでご公募いたします。

これまで 2 名の応募がありましたが、残りの 2 名につきまして再度公募をさせていただきます。締切は 3 月 15 日（土）です。複数の応募があった場合は、本年開催される ACUNS 研究大会で報告予定の方、ならびに過去に無料会員になっていない方を優先いたします。

希望者は ACUNS 研究大会での報告の有無、過去に無料会員になったことがあるかないかを明記の上、上記期日までに渉外主任・上村雄彦（uemura☆yokohama-cu.ac.jp、☆を@に代えてご対応下さい）までご連絡ください。

みなさまからのご応募をお待ちしています。

6. 広報委員会からのお知らせ

広報委員会では、会員の皆様の著書を学会ホームページに掲載する作業を進めています。このリストには、これまでの「国連研究」とそこに掲載されている「書評」の著書も含めています。これらの著書のリストは、現在 PDF 形式で掲載されていますが、今後はホームページ上で簡単に検索や並べ替えができるように、ホームページ作成業者と打ち合わせ中です。4 月頃までには完成させる予定です。引き続き、著書がありましたら、広報委員までご連絡ください。

7. 入会と退会の承認

2025 年 1 月 11 日の 2024 年度第 2 回理事会において新入会員として下記の 1 名、退会 6 名が承認されました。2024 年度末の退会者を反映した 2025 年 4 月 1 日時点での会員数は 289 名となる見込みです。

（新入会員 敬称略）

半澤 朝彦

8. 会費納入のお願い

会費未納会員への対応について

2021 年 6 月 18 日の理事会において、2 年以上会費をお納めいただいていない会員について、次のよう

に対応することを決定しました。

● メールアドレス・住所が不通で宛先が不明の会員

会員資格を停止し、復帰の申し出があった場合には、会費納入を条件に復帰を認めます。

● 宛先は有効で会費未納の期間が2年以上の会員

1か月の猶予をもって再度請求し、支払がない場合には上記宛先不明者と同様の扱いとします。

会費長期未納者への『国連研究』の送付について

2023年6月10日の理事会において、会費の長期未納者に対する『国連研究』の送付方針が次の通り承認され、翌11日の総会においても報告されました。2022年度までは会費の長期未納者であっても『国連研究』を毎年発送していましたが、2023年度から長期未納者に対しては送付を保留し、メールアドレスや住所の確認、及び未納分の会費請求を通じて、年会費の支払いが確認できた年度について当該年度の『国連研究』を発送することになりました。もし年会費を納入したにもかかわらず、『国連研究』が届いていない会員の方は、事務局までご連絡ください。毎年継続的に会費をお支払いいただいている会員の皆様には、従来通り『国連研究』を研究大会の開催時期に合わせて発送しています。

9. 事務局からのお知らせ

2017年度よりメーリングリストを立ち上げ、学会からの情報提供を随時行っております。ニューズレターにつきましても、PDF版をメーリングリストにて配信するほか、学会ホームページからも過去のニューズレターを含めてご覧いただけます。メーリングリストへの登録メールアドレス及び連絡先に変更のある方は、事務局までお知らせください。

2024年6月8日の第1回理事会及び2025年1月11日の第2回理事会終了後の会員異動を反映した2024年度の会員名簿の提供を3月に予定しています。学会MLを通じてPDFにより配信しますので、MLによって送付されたニューズレターに記載されているパスワードをご入力ください。

2024年度会員名簿パスワード（MLで送ったNLを見てください）

住所や所属先等に変更のある方は、学会事務局まで随時ご連絡ください。会員登録情報アンケートは、下記の学会ウェブサイトから入手し、ご記入のうえ送付をお願いいたします。

<https://jauns.net/contact#03>

10. コラム「国連よもやま話」

広報活動をより充実させていきたいという広報主任の理事会における発言に沿って、ニューズレターを親しみやすいものにするため、会員からの投稿の載せるコラムを始めることにしました。第1回は、広報委員の服部正喜氏が書きました。会員の皆様で何か投稿したい方がいらっしゃれば、気軽に広報主任の井上健（camelworld☆aol.com, ☆は@に変えてください）までお送りください。長さは400字まで、国連に関する内容で、署名入りの原稿をお願いします。

トランプ外交が動いている。ウクライナ和平は実現しそうだ。トランプは、資源提供を拒否された後、「ゼレンスキーは独裁者だ」といった。交渉が成立しそうになると、「そんなこと言ったかな」と。

戦争で世界の分断は進んでいる。軍事費増額で、世界中で財政が疲弊し、福祉を削る。さらに賃金上昇を背景に、インフレが進行している。コーヒー豆は2倍以上になり、日本でも、卵、コメ、キャベツ、ミカンが、高騰した。このうち主食のコメでさえ、57%上昇した。そのほか100%上がった日常必要食品があるのだから。2%のインフレ目標は、語られなくなったが、物価安定目標に変容した。日銀はインフレの番人であってほしいものだ。

国連の役割に期待したい。PKOや国連による暫定統治が、ウクライナやガザを救う唯一の希望のように思える。アメリカ軍やフランス軍が平和維持部隊を送るという。誰が指揮するのだろうか？ウクライナはNATOに入りたいという。NATOの集団的自衛は、安全保障じゃなくて戦争拡大にならないだろうか。

不安が尽きない

(服部正喜)

〒760-8523 香川県高松市幸町2-1

香川大学法学部 山本慎一研究室内

日本国際連合学会事務局

E-mail: jauns2013@gmail.com

日本国際連合学会 (JAUNS) ニュースレター 2024年度2号: 2025年3月発行

広報委員会 (広報主任: 井上健 広報委員: 平井華代、服部正喜)